石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

本年4月、創立30年を迎えました

胸膨らませ　夢への一歩

2018年度入学式

入学式で新入生を激励する尾池学長

2018年度の石巻専修大学入学式が4月4日、本学体育館で行われた。創立30年の節目の年に大学生活をスタートさせた新入生は、3学部7学科の学部生と大学院生、合わせて357人。桜のつぼみが膨らみ始めたキャンパスで、夢への一歩を踏み出した。

創立30年　努力を誓う

力強く宣誓の言葉を述べる学部総代の熱海さん

新入生は理工学部131人、経営学部142人、人間学部79人、大学院生5人。外国人留学生入学試験に合格し、経営学部に入学した留学生4人も笑顔で式に臨んだ。

尾池守学長は式辞で、「夢や目標の実現のために今何をすべきか、未来の視点から現在の自分を見て、考えることが大事」と大学で学ぶ意義を説いた。また、東日本大震災に直面し、さまざまな産業支援や生活支援を行ってきたことや、「いしのまき学」「復興ボランティア学」など独自の学びを紹介し、「本学でしかできない経験を積んでほしい」とエールを送った。

日高義博理事長、亀山紘石巻市長の祝辞に続き、大学院総代の遠藤おり恵さん（経営学研究科経営学専攻修士課程）と、学部総代の熱海航さん（経営・宮城県石巻商業高）が誓いの言葉を述べた。

本学の学生が復興に力を尽くす姿を報道で数多く目にしてきたという熱海さんは、「先輩方を誇りに思う」と敬意を表し、「石巻専修大学の一員としてひたむきに努力し続けます」と力強く宣誓した。

期待と不安で緊張気味だった新入生も閉式後はリラックスした表情に。ベトナムからの女子留学生、チャン・ティ・ニュンさんは「経営学の中でも観光分野について深く学びたい」と話し、いよいよ始まるキャンパスライフに意欲をみせていた。

式終了後は、新入生ガイダンスや学生・保護者懇談会などが行われ、サークル団体の勧誘の声がにぎやかに響いていた。

松島でオリエンテーション

新入生同士が親睦を深め、大学生活にいち早くなじんでもらうことを目的に毎年開催されている「新入生オリエンテーションセミナー」が4月6日から1泊2日、宮城県松島町のホテル松島大観荘で行われた。

最初は緊張した様子だった新入生たちだが、自己紹介や友達づくりワーク＝写真㊤、レクリエーションを通して、次第に新たな仲間と打ち解けていった。セミナーには教職員や先輩たちも参加。学科ごとに教員が講義内容や時間割の組み方などを説明したほか、学生会によるサークル紹介も行われ、大学生活のスタートに向け、さまざまな情報を伝えた。学生たちは「不安が多い大学生活のスタートだったが、今回のセミナーで友達ができ、授業が待ち遠しくなった」と話していた。

楽天戦を観戦

新入生や教職員ら約400人が7日、仙台市の楽天生命パーク宮城で行われたプロ野球の楽天イーグルス対福岡ソフトバンク戦を観戦した＝写真㊦。昨年、連携協定を結んだ楽天野球団の協力による初の試みで、地元・楽天イーグルスを熱心に応援した。太田みちるさん（経営・青森県三本木農業高）は「球場全体の一体感を感じながらジェット風船を飛ばし、楽しかった」と話した。

専大経営学部へ国内留学５人

右から千葉さん、熊谷さん、小野寺さん、菅原さん、阿部さん＝4月4日、生田キャンパス

経営学部の学生が特別聴講生として3年次前期の間、専大経営学部で学ぶ国内留学が始まった。参加する5人は4月4日から神奈川県川崎市の生田キャンパスで、新たな環境での学生生活に取り組んでいる。

参加学生は、菅原謙斗さん（宮城県仙台育英学園高）、熊谷祥さん（宮城県宮城広瀬高）、小野寺一樹さん（宮城県仙台育英学園高）、阿部舜さん（宮城県名取北高）、千葉雄大さん（岩手県一関第一高）。5人はキャンパス近くの生田研修館に入居。講義に加えてゼミナールにも所属し、専大生と一緒に8月まで勉学に励む。

阿部さんは「昨年参加した先輩から話を聞き、このチャンスを逃したくないと考えた。自分の殻を破る気持ちで積極的に講義に参加したい。経営学の知識をはじめ、幅広い知識を身につけ、今後に生かしたい」と話した。

千葉さんは「広告戦略を中心にメディア事業の理解を深めたい。将来、メディア関連の仕事に携わりたいと考えているので、自らの感性を磨き、発信力も鍛えたい。短い期間なので、何事にも挑戦する意欲を持ち、多くのことを吸収したい」と意気込みを話した。

復興まちづくり情報交流館
案内チラシが完成

牡鹿館の案内チラシ

人間学部人間文化学科の3年次生が、高校生と協力して取り組んだ「復興まちづくり情報交流館プロジェクト」。交流館3館の案内チラシが完成し、3月27日に石巻市役所で亀山紘市長をはじめ関係者に報告した。

本学と石巻市内の高校、企業・法人が連携し、人材育成や地域活性化をテーマに活動する高大産連携プロジェクトの環。佐藤利明ゼミ、輪田直子ゼミ、庄子真岐ゼミの学生6人と石巻市内4高校の生徒が参加した。

復興まちづくり情報交流館は、地域の将来像や復興への取り組みを紹介する石巻市営の施設。学生たちは中央館のチラシを参考に、北上館、雄勝館、牡鹿館で配布するチラシの作製に取り組んだ。

昨年9月には3班に分かれ各地区の歴史や文化、見どころ、東日本大震災の被害状況を調査。その後、話し合いや共同作業を重ね、半年がかりでA4判二つ折りカラー4ページにまとめた。幅広い来場者に対応するため英語の説明文も併記した。石巻市HPでも見ることができる。

表紙の写真は北上川河口のヨシ原（北上館）、慶長使節船建造の地にちなんだ創作太鼓の上演風景（雄勝館）、漁船が新造され活気づく港（牡鹿館）。地域を象徴する写真から、海や自然と深く結びついた多様な営みがみえる。

佐藤ゼミの甲州快さん（3年次・山形県酒田南高）は「市外から来た方にも石巻の魅力が伝わるように意識した。残りの学生生活も復興について考える機会を大切にしたい」と出来栄えに納得の表情をみせる。

庄子ゼミの佐藤ゆりかさん（3年次・宮城県石巻商業高）は「復興の状況を自分の目で見て、一歩一歩進んでいくことの大切さを改めて感じた。私も地元の石巻で働きたいと強く感じた」と意欲を新たにしていた。

新専任教員

新たに4人が専任教員となった（4月1日付）。各教員の氏名、職名、主な担当は次の通り。（敬称略）

◆理工学部

本田（ほんだ）秀樹（ひでき）
教授「電磁気学」「自動車制御工学」

都合により写真は掲載致しません

奈良（なら）英利（ひでとし）
准教授「細胞組織学」「動物解剖学」

都合により写真は掲載致しません

◆人間学部

杉浦（すぎうら）ちなみ
助教「教育社会学」「生涯学習論」

都合により写真は掲載致しません

目黒（めぐろ）志帆美（しほみ）
助教「英語」「英米文化論」

都合により写真は掲載致しません